



そこに愛はあるのかい？

砥部町広田地区 地域おこし協力隊

尼子 信也



地域おこし協力隊になるまで

私は平成28年10月、砥部町初の地域おこし協力隊として、広田地域に移住してきました。

生まれも育ちも大阪の私がなぜ縁もゆかりもないこの土地にやってきたのか。大阪では自分の好きなように自由気ままに、自分勝手な生活を送っていました。そして気づけば歳は30を過ぎ、自分の人生を振り返ることがあり、「自分は人のために何かしてきたのか？」と思うようになりました。そんな時、たまたま通りかかったところに「愛媛県地域おこし協力隊合同募集説明会」のチラシがあり、吸い寄せられるようにチラシを手に取っていました。「これだ！」とビビッと来た私は、説明会に参加し、これまた運命に導かれるように砥部町広田地域にやってきたというわけです。

着任してから

何か役に立ちたいという思いだけでやってきた私は、様々な壁にぶち当たりながらも地域の方々に助けてもらいながら少しずつ動き始めました。

特に秀でた知識や能力があるわけでもなく、受動的な性格の私はまず、地域での行事・催事に全てに顔を出し、お手伝いなどをさせてもらいながら自分の事を知ってもらおうと思いました。そして、地域の子どもたちと仲良くなり、半ば強制的に(笑)

「あまちゃん」というニックネームで呼んでもらい、距離を縮めていきました。

子どもは地域の宝であり、未来だと



子供たちと

思います。ある人の話を聞くと、

「広田から出た方がいい。松山など都会で暮らした方がいい」と言われて育ったといいいます。それは自分の子のことを思っている言葉だと思

います。私も都会へ出て頑張ることが悪い事とは思いません。しかし、将来、地元を誇りに思う気持ちや、広田での暮らしが財産になっていかなければ凄く悲しいことだと思のです。だからこそ今、広田地域にいる子どもたちにはのびのびと楽しく、広田地域のことを好きでいてほしいと願うのです。たとえ広田地域を「出る」と決めたとしても郷土愛を持って暮らしてほしいと思うのです。



地域での飲み会

これまでの活動について



広田のおばさま方と

まず、今までに地域の方から出た案を形にしてみることにした私は、若者世代を対象とした「ひろた大同窓会」をすることになりました。広田地域に在住している若い世代の方に声をかけ実行委員会を立ち上げ、20歳から40歳までの広田地域出身の方全員に声をかけました。「人が集まるのか?」「楽しんでもらえるのだろうか?」当日まで不安はたくさんありましたが杞憂でした。当日は、予想を超える盛り上がりを見せ、広田地域の方々の「パワー」を見せつけられたのです。これをきっかけにこれからの広田との関わり方を考えてもらえれば良いなと思っています。

そしてもう一つの案、広田地域に元気なひまわりを咲かそうというものです。しかしただ植えるだけでは、効果は少ない

いということ、地域の皆様に種とポットを配布し、苗を育ててもらい、それを広田小学校の「緑の少年団」の活動の一環として、植え替えをしてもらったのです。こうして様々な方に協力していただき、地域一体となつて「ひまわりの丘」を造ることができました。



ひまわりの丘

その他の活動について



木育学校スタッフ 集合写真

砥部町の「とべみらい会議」というグループが主催で行っている「木育がっこう」という木で遊び、木の良さをもう一度考えてみようという趣旨のイベントや、地域外の親子を広田地域に招いて交流するなどもしています。

す。やはり、広田地域のことを知らない人が多く、まずは広田地域の良さを知ってもらい交流していくことから始めるのが重要なのかなと思います。大きなイベントで人を呼ぶのも良いと思いますが、こういった地道な交流の積み重ねを続けていくことで広田の魅力が地域外に広めていければと思っています。

その他にも娯楽が少ないというのもあり、太鼓教室で太鼓を習って演奏したり、高齢者に向けてのちよつとした漫才やコントなどをさせていたideいたりもしています。



コント

これからの活動

広田地域の魅力や可能性をどのように広めていけば良いのか悩むことも挫折する時もありますが、その度に周りの人に助けられながらこの1年やってこれたと思っています。

力不足の否めない私ではございますが、少しでも広田地域の笑顔を増やせたらと思っています。